

「生活」が最も表れるのは「収納」であると考え、家族の生活行為・動線を優先し、モノのサイズやモジュール、躯体と設備配管をにらみながら、展開図に収納を描き込んだ。家族と共に、現場で考え、手を動かして「生活の豊かさ」を手に入れたリフォームである。

リフォーム前後の写真



A: 「生活は雑多なものである」という前提を受け入れ、「豊かさ」を問い直す実践的な試みとしての住みこなし



B: 既製品も既存躯体も、生活を彩る要素として引き立てる



C: 生活の中で、増えるもの・減るもの・変わらないもの



D: 展開図に表れる平面的な「余白」には「行為」が付随している



H: 購入時空間の魅力を生かしきれていない 解体中精度・設備的な制約が多く見つかった



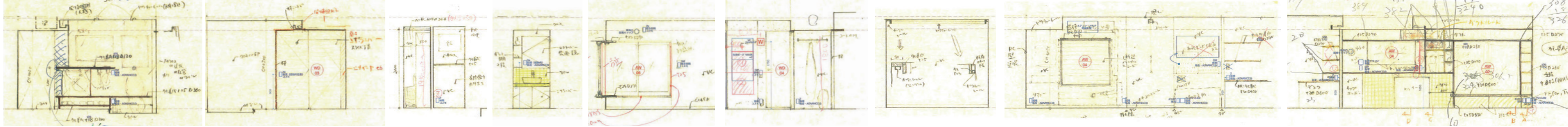
現場での発見を価値に転換していく作業



DIY 左官によってイメージを共有していく 即興性を計画に取り入れ、雑多さを担保

展開図 S=1/100

生活の表れとしての「収納」を共有するためのコミュニケーションツールとして「展開図」を設計の中心におき、現場の各面に貼り出して調整した記録



リフォームの動機／設計・施工の工夫点／施主の感想・満足度／社会や地域の課題解決に資する取り組み等、審査基準に適合することを示す具体的内容

現在の不動産市場では、築年・駅距離・部屋数によって価値が査定される。対象は、築45年・駅徒歩20分ででありながら、全住戸が3面以上の開口部をもつ有機的な配置のマンションの一住戸であり、「生活の豊かさ」という視点から既存ストックとしての潜在的な魅力を再編集できないかと考えた。意識的にも無意識的にも、「生活」が最も表れるのは「収納」であると考え、それをよく表現できる「展開図」を設計の中心に据えた。具体的には、テイストの違う各々の趣味(本、家電、植物、おもちゃなど)や増えるもの(子供の工作、写真、食料品など)を生活動線を優先しながら、どう見せ、どう仕まうのか、邪魔		な配管ルートや、低い排気ダクト、エアコンルートの取れない部屋の問題解決などを、丁寧に共有しながら書き加えた。部屋数を減らし全室の通風を確保、既製品のモジュールに合わせた収納家具で緩やかに仕切り視線の連続性をつくり、DIY の仕上や多様な材料、既成の住設を積極的に組み込みながら端部の素材と納まりによって「雑多さ」の中に一定の秩序を描いた。この取組は、自らの設計・施工・居住・再販を通して、投機的な住宅流通に「生活の豊かさ」を取り戻す実践的な試みである。	
--	--	--	--

右記に該当する場合は✓(審査基準参照) ☒ a.ストックの有効活用 / ☒ b.技能者不足への対応 / ☒ c.地域・コミュニティの活性化 / ☒ d.既存流通の活性化等

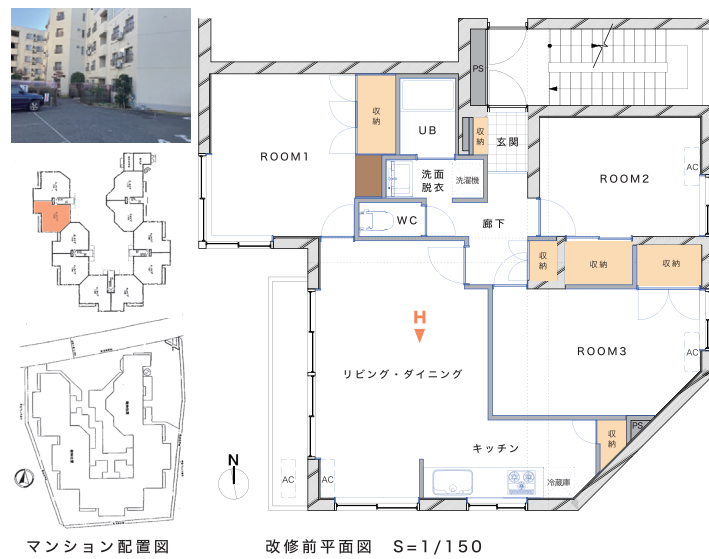
lw値	リフォーム前	リフォーム後	UA値	リフォーム後	性能向上等、特に配慮した事項
ls値					大きな開口は全て内窓を設置(断熱)、床コルクは防振ゴム付きコルク下地を採用(断熱・防音)、間取りの工夫で全室の通風を確保(環境)、水回り位置を変えずに配管配線を更新(コスト・耐久)

所在地 埼玉県さいたま市浦和区 新築竣工年 1981 年 築後年数 45 年 施工期間 75 日間

該当工事床面積 74.48 m² / 総工事床面積 74.48 m² 該当部分工事費区分 1,300万円 / 総工事費区分 1,300万円

居住者構成 65 歳以上: 人 / 40 ~ 64 歳: 人 / 15 ~ 39 歳: 2 人 / 14 歳以下: 2 人 / ペット: 人

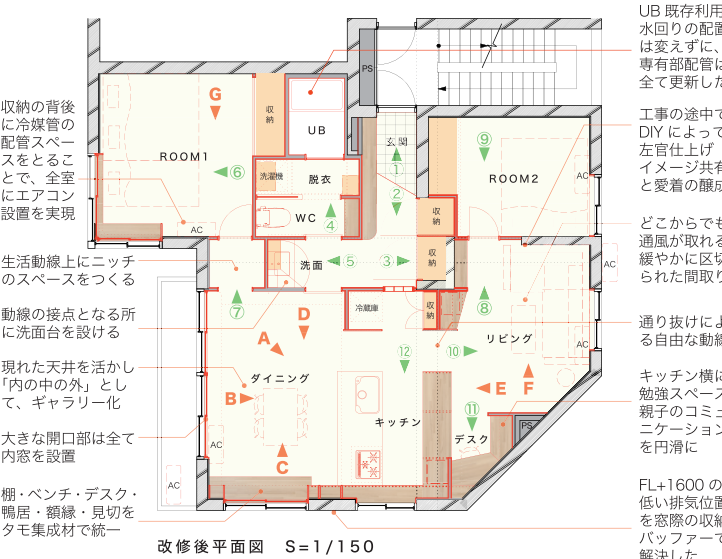
リフォーム前の平面図



マンション配置図

改修前平面図 S=1/150

リフォーム後の平面図



改修後平面図 S=1/150

リフォーム部位: ■居室/ ■台所/ □浴室/ ■便所/ ■洗面所/ ■廊下/ □階段/ ■玄関/ ■クローゼット/ □マンション共用部分/ □その他